



# プロセス 事例集

農山漁村振興交付金  
【地域活性化対策 活動計画策定事業】  
(令和4年度～令和6年度実施分)



## はじめに

農山漁村においては、人口の減少・高齢化、社会インフラの老朽化等に伴い、地域コミュニティの活力低下や地域経済の低迷が深刻化しており、農業生産活動を主体として育まれてきた地域社会を維持することが困難になりつつあります。

このような中、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の多様な地域資源を活用し、農林漁業者のみならず、地元企業等も含めた多様な主体の参画の下で付加価値の創出を図ることにより、就業の場の確保や所得の向上等を実現し、農山漁村の自立、維持発展を図っていくことが重要です。

このため、農林水産省では農山漁村振興交付金（地域資源活用価値創出推進事業）により、地域が持つ豊かな地域資源を活用した地域の創意工夫による取組を進めるための活動計画づくり等を支援しています。

こうした取組の内容、効果等をプロセス事例集としてとりまとめましたので、今後、各地域が抱えている課題の解決に向けた取組の参考としていただければ幸いです。

お問合せ先

農村振興局農村政策部都市農村交流課  
電話：03-3502-8111（内線5419）

# 目次

## 取組内容

① 都市と農山漁村の人々が交流するための取組

② 都市住民が農山漁村に定住するための取組

③ 農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組

### 1 亜麻のふるさと当別活性化協議会 (北海道当別町)

取組内容：①・②・③

一部地域や産業に限られていた亜麻を活用し、商品開発や情報発信、講座・イベントの開催などを通じて、新たな経済循環を生み出す。

### 2 いさわ農村活性化推進協議会 (岩手県奥州市)

取組内容：①・②・③

次世代の農業及び地域活動の担い手の創造に向けて、胆沢地域の課題共有を図り、課題解決に向けた取組等をいさわ活性化将来ビジョンとしてまとめた。ビジョンに基づき、農業法人交流会等の農業振興プロジェクト、空き家の活用等の都市交流プロジェクトを行い、次世代の農業者及び地域の担い手確保を図った。

### 3 大郷粕川を元気にする協議会 (宮城県大郷町)

取組内容：③

災害後の土地における大豆ミートの可能性を探る活動や農業体験の開催、住民アンケートの実施、地域イベントの企画・運営など、地域の活性化に貢献できる活動を実施した。

### 4 西川町山菜王国推進協議会 (山形県西川町)

取組内容：①・②・③

山菜の安定供給と販路確保の両立に向け、西川町の山菜に携わる人々により協議会を設立。  
担い手確保による生産体制の強化と山菜の高付加価値化、山菜を活かした交流人口の創出に取り組んだ。

### 5 あさひりんごの郷協議会 (山形県朝日町)

取組内容：②

地域おこし協力隊制度を活用し、町と共同で新規就農者の公募、県などの関係者を含めて樹園地継承の仕組み検討、講演会（地域農業の発展のための園地整備について）の実施、農業経営におけるIT・デジタル情報活用の取組、機関誌の発行及びSNSによる地域資源等の魅力発信を実施した。

### 6 養蚕Park実現協議会 (群馬県富岡市)

取組内容：①・②・③

地域住民が「蚕の魅力」を生み出す体制を支援、養蚕が魅力ある農業であることをサポートした。また、養蚕が生み出した「冬虫夏草（カイコサナギタケ）」の富岡ブランドづくりを図った。

### 7 相模原新都市農業推進協議会 (神奈川県相模原市)

取組内容：①・②

農業・畜産生産者を中心に、加工や観光などの6次産業化をベースとした交流事業を推進し、地元の農業振興を図り、相模原市が掲げる「人・自然・産業が共生する活力あるさがみはら」の実現を目指す。

### 8 ドラマチック高森運営協議会 (長野県高森町)

取組内容：①・③

高森町の様々な課題に対し、農業を活用した地域ブランディングや持続可能な地域産業の構築により、新たな仕組みづくりを進めた。

### 9 ふるさと弥栄振興会 (島根県浜田市)

取組内容：①・③

少子高齢化による農業の後継者・担い手不足などの地域課題を解決するため、休止中であった地域の拠点施設の再開に併せ、地域資源を活用した地域内外との体験交流活動を行い、移住、定住に結びつけ地域の担い手確保に向けた仕組みづくりを進めた。

### 10 小豆島ふるさと村活性化協議会 (香川県小豆島町)

取組内容：①・③

小豆島ふるさと村を取り巻く自然観光こそが小豆島町の大切な資源と考え、その自然の中で育まれた文化・産業を観光産業資源としてさらに磨き、地域の人々と都市部から訪れる人々が交流を深める機会を提供した。

### 11 地域資源を活かす会 (熊本県南阿蘇村)

取組内容：①・②・③

地域資源R&Dと生産・加工・体験を提供する「次世代型農場」を東海大農学部跡地に設立、生業と暮らしを創出する地域マネジメント機関の創出、JA等と連携し、田園版MaaSや移動販売等の実施、耕作放棄地の集約化と農産物の生産・販売により、雇用の増加・経済活性化を図った。

### 12 錦江町地域活性化協議会 (鹿児島県錦江町)

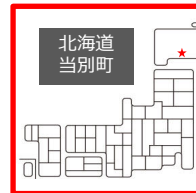
取組内容：①・②・③

「地域資源を生かして消滅可能性都市から脱却し、将来世代が誇れる持続可能な魅力ある地域」を目指し、都市農村交流を促進することで、地元住民同士の連携を構築し、地域の魅力を活用した経済循環地域が持続する体系を構築した。

# 1 亜麻を活かした地域活性化事業（北海道：当別町）

## 事業の ポイント

一部地域や産業に限られていた亜麻を活用し、商品開発や情報発信、講座・イベントの開催などを通じて、新たな経済循環を生み出す。



## 基本情報

### 亜麻のふるさと当別活性化協議会 （北海道石狩郡当別町）

#### 【協議会構成員】

当別町（経済部農務課）、当別町商工会、当別町観光協会、当別町亜麻生産組合・当別まちづくり株式会社

#### 【実施地域】 当別町全域

#### 【主産業】 農業

主要作物等：米、小麦、花卉、豆、デントコーン、かぼちゃ、アスパラ

## 体制図

### 亜麻のふるさと当別活性化協議会

#### 計画部会

当別町、当別町商工会  
当別町観光協会  
当別町亜麻生産組合  
当別まちづくり（株）

（有）亜麻公社・亜麻まつり実行委員会、とうべつ学園、西当別小学校、西当別中学校、当別町町内会連合会、西当別連絡協議会

#### 亜麻の価値向上部会

当別町、当別町観光協会  
当別町亜麻生産組合  
当別まちづくり（株）

（有）亜麻公社・亜麻まつり実行委員会、独立行政法人北海道総合研究機構産業技術環境研究本部食品加工研究センター

#### 学校・地域連携部会

当別町商工会  
当別町亜麻生産組合  
当別まちづくり（株）

（有）亜麻公社、亜麻まつり実行委員会、当別町立とうべつ学園、当別町立西当別小学校、当別町立西当別中学校、中央通り会、本通振興会、当別町町内会連合会、西当別連絡協議会、（一社）当別青年会議所、（株）北海道技術コンサルタント

#### 情報部会

当別町観光協会、  
当別まちづくり（株）

（一社）当別青年会議所

## 取組の概要

### 取組内容（R4～R6）

#### (1)活動計画策定

- ・地域活動計画策定会議
- ・ワークショップ
- ・札幌市民向けアンケート調査

#### (2)体制構築及び実証活動

- ・亜麻の魅力を知るモニターツアー
- ・新メニュー開発、販売促進
- ・亜麻の歴史講座
- ・植栽支援 等

#### (3)専門的スキルの活用

- ・亜麻アプリ制作、更新



亜麻アプリ更新・機能追加



亜麻の歴史と魅力を知る講座



新メニュー開発・販売促進支援



亜麻畑環境整備



亜麻撮影スポット整備



亜麻の魅力を知るモニターツアー



小学生向け亜麻の歴史講座



町内会 亜麻の植栽支援



商店街等植栽支援



情報発信プロジェクト

## 対策の効果

### 対策前(課題)

○亜麻の活用は一部地域・産業にとどまり、当別町で就業の場の確保、所得の向上及び雇用の増大への効果は限定的である。

○当別町・亜麻の認知度が低い。

○当別町の強みを実感できるコンテンツを提供できていない。

### 対策後(効果)

○毎年亜麻祭りを開催している旧東裏小学校に新たにお餅屋でお餅屋（風鈴ちりり）が開業したほか、町内に新たな民泊事業者も創業し、経済循環が動き始めた。

○亜麻歴史講座は町立とうべつ学園のほか令和7年度からは西当別小学校でも開催。当別高校による亜麻の植栽企画がはじまるなど、学校を基軸に認知度の向上が図られた。

○有限会社亜麻公社が、亜麻を用いた体験メニューを常設した施設の開業を検討しており、今後農泊事業の活用も視野にいれている。

- ・ 亜麻生産量の減少
- ・ 人口減少
- ・ 地域経済の衰退

農山漁村振興交付金  
活動計画策定事業の  
活用

## 2002年

### 事業取組のきっかけ

これまで、当別町東裏地区及び青山地区を中心に亜麻の生産を行い、有限会社亜麻公社（当協議会連携団体）を通して販売をするほか、亜麻まつりの開催や中学校・ダムでの植栽活動など地域内での活動を継続してきた。特に、当別町立とうべつ学園（小中一貫校）は、生徒のデザインにより校章に亜麻の図案が採用されたほか、校章・制服にも亜麻色が採用されるなど、地域資源としての認知と価値が徐々に高まりつつある。しかし、亜麻の活用はまだまだ一部地域・産業にとどまり、当別町で就業の場の確保、所得の向上及び雇用の増大への効果は限定的である。そこで、地域資源である亜麻を活かした新たな経済循環の創出に取り組むこととした。



毎年異なる圃場に  
撮影スポットを設置

## 2022年

### 事業開始 1 年目（取組実績）

- 活動計画策定
- 亜麻の歴史と魅力を知る講座準備
- 亜麻の魅力を知るモニターツアー準備
- 亜麻アプリ制作
- 新メニュー開発・販売促進支援（6品）
- 小学生向け亜麻の歴史講座準備



JR当別駅発着の  
モニターツアーバス

## 2023年

### 事業開始 2 年目（取組実績）

- 亜麻アプリ更新・機能追加
- 新メニュー開発・販売促進支援（6品）
- 亜麻撮影スポット整備
- 小学生向け亜麻の歴史講座
- 商店街等植栽支援
- 亜麻の歴史と魅力を知る講座（6回）
- 亜麻畑環境整備
- 亜麻の魅力を知るモニターツアー
- 町内会亜麻の植栽支援
- 亜麻アプリ更新・機能追加



当別町産亜麻の種を  
つけたお菓子

## 2024年

### 事業開始 3 年目（取組実績）

- 亜麻アプリ更新・機能追加
- 新メニュー開発・販売促進支援（6品）
- 亜麻撮影スポット整備（看板6か所）
- 亜麻の魅力を知るモニターツアー（夏）（7月実施）176名
- 亜麻の魅力を知るモニターツアー（秋）（10月実施）
- 小学生向け亜麻の歴史講座（3月実施2クラス）
- 商店街等植栽支援（駅前通り花壇、中央通り商店街店舗で実施）
- 亜麻の歴史と魅力を知る講座（6回）
- 亜麻畑環境整備（5～11月実施）
- 町内会亜麻の植栽支援（とうべつ学園）



町立とうべつ学園美術部  
による案内看板



町立とうべつ学園で  
亜麻の植栽（毎年実施）

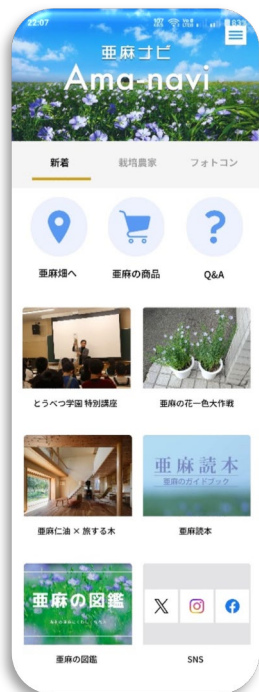
## 2025年～ 今後の展望

### 宿泊事業との連携を進め、地域経済循環の完成へ

- ・ 3年間の取組を通じ、小学校から高校までが連携し、子どもたちへの亜麻の認知を高める体制が構築できた。この体制を基盤として、亜麻をさらに地域に根付いた地域資源に育てていく。
- ・ 新たな飲食店や民泊事業など地域経済循環の仕組みが動き始めた。有限会社亜麻公社を中心に、常設の施設整備をすすめ、この経済循環を完成させ、就業・所得向上へとつなげる。



亜麻まつりでの  
協議会ブース



亜麻アプリ